

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	数値上では知識・技能の平均正答率が市平均を著しく下回ることにはなかつた。また、知識・技能全体の標準偏差も25ptを大きく上回ることにはなかつた。前述から、知識・技能では領域ごとのバラツキが顕著であることが大きな課題である。次年度からは各領域の単元名をはっきりと示すことで生徒に印象付け、繰り返し学ぶ時間や指導の個別化を図り、領域ごとの理解度のバラツキを解消する。
思考・判断・表現	思考・判断・表現においても、知識・技能と同様に、数値上では市平均を著しく下回ることにはなく、全体の標準偏差値も25ptをほぼ上回ることにはなかつた。しかし、前述した領域ごとの標準偏差値にバラツキがあり、領域ごとの理解度に差が見られる。また、今年度行った学びの指標アンケートでは、多くの項目が市平均を上回る結果となったものの、唯一ICTの活用についてのみ、市平均を下回った結果となった。以上のことから、次年度の課題は「ICTを活用した協働的な学び」と考える。生徒間で意見を共有したり、議論したりする活動を、ICTを通して行うことで、思考・判断・表現の基盤となる力の育成を目指す。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>各科目の領域ごとに、知識・技能の定着率の偏りがみられる。 <指導上の課題>授業内で知識・技能を定着させる支援が不十分でない。また、在籍する生徒の約半数が、十分に家庭学習を計画的に取り組めていない。	⇒ デジタル教科書やスタディサプリ等を活用する際、生徒のつまづきを机間指導等を通じて把握し、習得につながる支援・助言を行う。また、補助名簿等を活用し、生徒のつまづきを記録することで、上記の支援・助言につなげる。【R6年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科の領域ごとの標準偏差が25pt以下】
思考・判断・表現	<学習上の課題>与えられた情報から判断して考察したり、自身の考えを記述で表現したりすることが課題である。 <指導上の課題>生徒同士の考えを共有したり、議論したりすることで考えを深めるための指導が不十分ではない。	⇒ 授業内の生徒同士の協働的な活動を重視し、ICTを活用して考えを共有したり、それを基に議論したりする。【毎回実施】 また、個人の意見に対してICT等を活用し、形成的評価を行う。【R6年度さいたま市学習状況調査の教科の調査項目において、各教科で表現力の差が5pt以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	SAの協力やITの体制により、机間指導等を通じて生徒のつまづきを把握し、習得につながる支援・助言を行うことができた。また、難易度に合わせて生徒が問題を選択することで、個別な支援を行った。さいたま市学習状況調査での各教科の領域ごとの標準偏差は、目標値として設定した25ptを下回る領域はあったものの、特定の領域で高い標準偏差を算出する場合もあり、数学の場合は特に顕著であった。生徒の個人差によるバラツキが出るような単元では一斉授業による効率的な授業と能力に合わせた個別の課題解決を行う授業を取り入れていく。
思考・判断・表現	B	授業内でICT等を通して個人の考えを共有して、協働的な学びを実践することができた。しかし、R6年度さいたま市学習状況調査では、各教科で表現力を示した設問に対する本校の正答率は、国語では市平均に対して約1pt上回ったが、数学では市平均を約3pt下回る結果となった。目標は達成できなかったものの、領域別に見た場合には市平均を上回る領域も確認できることから、領域ごとの理解度のバラツキを抑えていくことが課題の1つと考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の平均正答率は昨年度と比べて低く、特に「情報の扱い方に関する事項」では全国平均値と比べて約5pt低い結果となった。数学の平均正答率は昨年度と比べてやや高かったものの、データの活用の四分位範囲に関する問いについては全国平均値と比べて約7pt低かった。以上のことからデータや情報リテラシーについて課題があることが分かる。授業改善策を積極的に実施していくことで、教科横断的に身に付けていく。
思考・判断・表現	国語で「文章と図の結び付け」や「必要な情報に着目する」を問う問題の正答率は全体から見ると低い結果となっている。数学では「筋道を立てて証明する力」を問う問題については全国平均値よりも高い正答率を保ったものの、知識・技能と同じくデータの活用で「データの分布の傾向を読み取る力」に課題が見られた。以上のことから、知識・技能で示した内容と同様にデータや情報リテラシーについて課題があることが分かる。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の知識・技能において、1年生では市平均と比較し、正答率がやや下回る結果となり、2年生では上回る結果となった。数学でも同様の傾向が見られたことから、国語及び数学で取り組んでいる単元テストや小テストの実施が功を成したと考えられる。指導の個別化を心がけることで、効率的に学習する姿勢を養っていきたい。
思考・判断・表現	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、1年生よりも2年生のほうが市平均と比較し、正答率の差が高い傾向にあった。また、数学の「データの活用」でも同様の傾向が見られた。上記と同じく、繰り返し学ぶことで思考力だけでなくとどまらず、表現する力の育成にもつながったと考えられる。生徒が学習した内容を確認したり、試したりする場を積極的に用意することで、知識を応用する力や思考力を効率よく身につけていきたいと思います。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	学びの指標アンケート結果では、基礎的スキルの平均値は市平均とほぼ等しい値であり、基礎的スキルの項目の中で最も高い平均値だったのは「基本的な内容をわかりやすく、いかに教えてくれる」項目であった。生徒の様子やつまづきの予兆を把握して、指導につなげることができている。今後は、よりデータや情報リテラシーを向上させるような場面で、より意識を高めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びの指標アンケート結果では、主体的な学びに関する項目の平均値が市平均をやや上回ったものの、探究的な学びに関する項目では市平均をやや下回った。「友だちの考えと自分の考えを比較している」項目では肯定的な解答が多い傾向が見られることから、協働的な活動を実施し、学びにつなげることができている。自他の考えを理解・表現するなど、協働的な学びを通じてデータや情報リテラシーを向上させるよう意識していく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)